

健康文化

庭先の春

今井田 二三子

私が春の訪れを最初に感じるのは、伊吹山の頂の雪が消えたときと、足の凍瘡の痛みを感じなくなったときです。ところが最近数年間は正月にも伊吹山の冠雪を目にしないうちもあり、遠景から春の足音を感じ、期待と空想に胸をふくらませることがなくなってきたように思います。しかし地上に目を向けると、庭先には雑草が一面に芽をだし始め、庭の隅には、いち早くタンポポが黄色の花をのぞかせています。春の彩りを喜んで残しておくようなことをすれば来年は黄色の花の脅威にさらされることは必定、花に詫びながら目を閉じて引き抜かなければなりません。あの可憐なスマイレも同様、残した翌年はスマイレの群生に悲鳴をあげさせられます。十年ほど前、杉苔の中に針金のような、か細い茎の先に紫色の花をつける楚々とした草花を見つけ、新種発見とばかり喜んで残したところ、その逞しい広がり方に今や恐怖を感じています。

今年の庭先の異変といえば、開発のため山林を追われたのか鷺が松の梢に巣を造り始め、その松の木は鳥の巣造りの常設の場所のため、鳥も黙って見過ごしておりません、早朝から鳥の集団抗議の鳴き声に交じり鷺の威嚇の啼き声加わり暁の夢を破られる毎日が続きました。そのうち、鳥と鷺の間でどう協定が成立したのか鳥の声が少なくなり、それまで木の天辺で昼夜見張り役をしていた父親と思われる鷺も餌を捕りに出かけるのか時々見られないこともあり、母親鷺のみ木の小枝で造った巣の中で終日卵を抱いているようでした。そのうち水色をした卵の殻が落とされ、数日前から雛鳥の啼き声が聞かれるようになりました。鷺の巣は三つで卵の殻からするとそれぞれに二羽が孵っているようです。母親たちは雛の孵った今は時々巣の縁で背伸びをしていることがありますが一歩も巣から離れることはありません。雀達が見慣れない仲間と思うのか、好奇心によるものか一羽また一羽、鷺の巣の近くの枝からのぞき込んで飛去っていますが鷺の方も雀は眼中にないのか追い払うこともなく何の反応も示

さないようです。以前、田に水を引き込むための貯水池に、魚を雑居させていた頃は、魚をねらって舞い降りる鷺を目の敵にして追い払っていたのが、貯水池は埋め立てられ、魚もいなくなった今は、大変寛大な気持ちで鷺の雛の誕生を喜んでいる自分を発見し苦笑をしています。

一方鳥の方は、今は子供鳥が飛翔の練習中で、先日も家の横の庇近くに伸びた木の枝を切り落としたりしたところ、枝と共に子供鳥も落ちてきて、羽をばたつかせながら助けを求めるような啼き声を出しますと、何処からともなく母親鳥が飛んできて、屋根棟から子供鳥を見下ろして切なそうな呼び声をあげていましたが、私を日頃の顔見知りと思ったのか、それとも取るに足りないと軽視したのか威嚇の低空飛行をすることもなく、暫くして子鳥は自力で近くの木の枝に戻った様子でした。今年は鷺と鳥の争いに恐れをなしたのか待っていた鷺も小声で啼いて早々に姿を消したようでしたが平和になった今頃になってまた戻ってきて小声で啼いています。

三月の岐阜市郊外の山火事で埒を失ったのか例年より多くの雉が此処彼処で啼き、西の藪を住まいにしているのはまだ家族が見つからないのか朝早くから甲高い啼き声をたてています。三月の暖かい日ざしに誘われて穴から出てきた蛇が翌日の寒波で動けなくなり叢に返してやりましたがまだ姿を見せていません。

国外では心が痛む戦いが続き、国内では頭の痛くなるような出来事が新聞紙上を賑わせていますが私の処の庭先は小さな争い、彼らにとっては大きな争いであったのかもしれませんが、まあ穏やかに春が終わり初夏を迎えようとしています。

(内科開業医)